

(別紙)

令和5年度(令和4年度からの繰越分)障害福祉分野のロボット等導入支援事業 (施設等に対する導入支援分) 事業報告書

※導入機器ごとの効果や目的等を把握するため、導入機器ごとにそれぞれ作成をしてください。(一体的に利用している機器を除く)

自治体名 愛知県

【基本情報】

フリガナ	シャカイフクシホウジン アイケンコウセイギョウダン
法人名	社会福祉法人 愛知県厚生事業団
フリガナ	アイコウスギノキノサト
事業所名	愛厚すぎのきの里
施設・事業所種別(指定を複数受けている場合は、補助上限額を適用する施設・事業所を選択)	
障害者支援施設	
職員数(常勤換算数)【「従事者の1ヶ月の勤務時間」/「事業所等が定めている、常勤の従事者が勤務すべき1週間の時間数 × 4(週)」にて算出(産休・育児・休職は除く)】	
35.7 人	

(1)主な導入機器内容(種別・機器名等)

- 機器の種別: 移乗介護 排泄支援 入浴支援
 移動支援 見守り・コミュニケーション

機器名(導入台数) aams/アアムス(本体3台、管理マスターサーバー1台)

(2)ロボット機器等導入前の定量的指標及びロボット機器等導入後の定量的指標

① ロボット機器等導入前の業務時間内訳

業務内容	A.業務従事者数	発生件数		D.1件当たりの平均処理時間(分)	人時間 E(A×C×D)	1人あたり業務時間 (C×D/A)	
		B.ひと月当たり	C.年間発生件数(B×12)				
直接介護	1 移動・移乗・体位変換	2 人	26 件	312 件	5 分	52 人時間	13 時間
	2 排泄介助・支援			0 件		0 人時間	#DIV/0!
	3 生活自立支援(※1)	3 人	60 件	720 件	2 分	72 人時間	8 時間
	4 行動上の問題への対応(※2)	3 人	47 件	564 件	15 分	423 人時間	47 時間
	5 その他の直接介護			0 件		0 人時間	#DIV/0!
間接業務	6 巡回・移動			0 件		0 人時間	#DIV/0!
	7 記録・文書作成・連絡調整等(※3)	3 人	47 件	564 件	10 分	282 人時間	31 時間
	8 見守り機器の使用・確認			0 件		0 人時間	#DIV/0!
	9 その他の間接業務	3 人	12 件	144 件	15 分	108 人時間	12 時間
			192 件	2,304 件	47 分	937 人時間	#DIV/0!

- ※1 入眠起床支援、利用者とのコミュニケーション、訴えの把握、日常生活の支援
 ※2 徘徊、不潔行為、昼夜逆転等に対する対応等
 ※3 利用者に関する記録等の作成、勤務票等の作成、申し送り、文書検索等

以下の※1及び※2については、ロボット機器等導入前の実際の業務状況に即した算出をお願いします。

<※1>B.ひと月当たり発生件数の算出方法

【想定内容:夜間時間帯、夜勤職員3名、希望台数3台】
 ・項目1=移乗等は基本2名体制で実施。問題行動後床からベッド又は車いすへの移乗は月平均26件・項目3=定時の巡視3回を除いた、介護機器設置予定利用者様3名の、徘徊、転倒、放尿等への防止策としての個別対応による声掛け状況把握回数を月平均60件とした。・項目4=機器導入対象者3名の問題行動における対応件数は月平均47件とした。項目7=項目4に対する記録作成として同数47件とした。・項目9=汚染物の洗濯などが平均12件とした。

<※2>D.1件当たりの平均処理時間の算出方法

【希望台数3台=対象者3名=関わる職員数3名と設定】・項目1=移動や移乗、体位の調整に平均5分とした。・項目3=訴えや状況把握など平均2分とした。・項目4=対象利用者3名の、昼夜逆転などで自分の衣類、おむつを引きちぎって放り捨てる行為、放尿、徘徊、転倒、転落など発生した場合、発生状況及び身体確認(怪我等)に8分、移乗/移動に2分、片付け等に5分必要として、1件あたりの平均所持時間を15分とした。・項目7=特に記録には時間を要するため10分とした。・項目9=洗濯、乾燥など間接的業務は1件あたり平均15分として算出した。

② ロボット機器等導入後の業務時間内訳

業務内容	A.業務従事者数	発生件数		D.1件当たりの平均処理時間(分)	人時間 E(A×C×D)	1人あたり業務時間 (C×D/A)	
		B.ひと月当たり	C.年間発生件数(B×12)				
直接介護	1 移動・移乗・体位変換	2 人	3 件	36 件	5 分	6 人時間	2 時間
	2 排泄介助・支援			0 件		0 人時間	#DIV/0!
	3 生活自立支援(※1)	3 人	30 件	360 件	2 分	36 人時間	4 時間
	4 行動上の問題への対応(※2)	3 人	19 件	228 件	15 分	171 人時間	19 時間
	5 その他の直接介護			0 件		0 人時間	#DIV/0!
間接業務	6 巡回・移動			0 件		0 人時間	#DIV/0!
	7 記録・文書作成・連絡調整等(※3)	3 人	19 件	228 件	10 分	114 人時間	13 時間
	8 見守り機器の使用・確認			0 件		0 人時間	#DIV/0!
	9 その他の間接業務	3 人	4 件	48 件	15 分	36 人時間	4 時間
			75 件	900 件	47 分	363 人時間	#DIV/0!

以下の※3及び※4については、ロボット機器等導入後の実際の業務状況に即した算出をお願いします。

<※3>B. ひと月当たり発生件数の算出方法

【納品日:令和6年1月25日、導入台数3台＝使用者3名＝夜勤者3名】

・項目1＝徘徊、転落などによる移動や移乗は実数月平均3件程度となった。・項目3＝対象利用者3名の睡眠状況等がパソコン上で常時確認できることから、状態確認、訴えの把握等の回数を月平均30件とした。・項目4＝徘徊、放尿、転倒による問題への対応件数が47件から19件と28件を低減できた。発生件数19件は、介護機器のコードを利用者がベッド下から引き出し切断させてしまい、一時使用できない期間が生じてしまったこと、他の利用者への対応中であつたため反応してもすぐに駆けつけることが出来なかったことなどから、記録等の業務が発生してしまった。・項目7＝問題行動に対する記録作成は項目4と同数とした。・項目9＝問題行動減により間接業務も12件から4件と減少で来ている。

<※4>D. 1件当たりの平均処理時間の算出方法

・すべての項目に対する1件当たりの平均処理時間数は、導入前と同時間数とした。

年間業務時間数想定削減率(%)

61.3%

(3) 削減率が20%を超える場合は、その要因について記載すること。

・夜勤職員3名で定員60名、プラス短期入所者様の対応しているが、高齢化(最高齢80歳、平均61歳)と重度化(区分5.4)による支援の負担は増加し続けている。その上、昼夜逆転による衣類や身の回りの物を引き裂いてしまう行為、トイレではない場所へ放尿する不潔行為、立位や歩行不安定で見守りが必要な方の徘徊などによる転倒が常に発生している。このような事が発生した後、それに係る片付け、ケガの確認、処置からケース記録への入力、事故報告書やインシデント報告書の作成、家族への報告など一連の流れとして行っており、状況によっては相当な時間を要する状態であった。しかし、見守り介護機器を導入したことで、センサーマットから感知される心拍、呼吸、体動の生体情報を常に確認する事ができることで、定時巡回以外での入室回数を減らし、離床・問題行動前に対応することが可能となった。このことは、不潔行為や徘徊、転倒などの事故を防ぐ事ができるとともに、利用者様の安全を確保することに繋がる。そして、その後の片付け、記録など多くの業務時間を費やしてきた事案が減る事が、想定削減率を高めた要因と考えている。

(4) ロボット機器等の導入により得られた効果

・昼夜逆転により衣類を引き裂いてしまう行動について、睡眠パターンを分析し日中活動の充実を図り、夜間眠れるように計画を実行している。・放尿、徘徊する方へは感圧を感じた時にトイレに行くよう促すことが可能となった。また、睡眠と覚醒パターンを支援室のパソコン上で確認できるため状態把握も容易になった。・移乗等の立位不安定な方へも感圧センサーと睡眠状態の確認ができることから、早めの対応がとれるようになった。このようなことから、転倒、転落、放尿、服を引き裂くなどの行為を防ぐことができ、発生した場合の身体確認、片付け、記録などの業務を低減できる効果があった。・利用者様へ痛い思いなどを減らすことが減った。家族への事故報告も減らせることができ、安心していただけるようになった。・夜勤職員からは、3人と人数が少ない中で、転倒、放尿等の行為への不安を抱えながらやっていたが、睡眠、離床、心拍、呼吸などの状態までパソコン上で確認できるため、精神的負担が減ったという意見があった。

(5) 今後の課題

・睡眠状態を確認することができるが、その後の日中活動を充実するなどの方法を個々に計画して、改善する必要があると生じている。・利用者様全員(約60名)の睡眠状態など把握したいが、3台しかないため時間を要する。・静養室での使用実績が無いので、階をまたいだ場合での使用や看護師との連携方法についても確認する必要がある。・アムス離床、睡眠、心拍、呼吸など管理可能な項目が多いため、使用方法について検討と設定に詳しい職員を増やす必要がある。・データの蓄積が1ヵ月間と短いため、月単位の比較が難しい。

(6) 気づき等について

・施設内のWi-Fi環境により、数分ではあるがデータが途切れるケースが発生している。・設置した方のベッド周りは、ナースコール、介護ロボット(アムス)などコードがたくさんとなり、シーツ交換やベッドを動かすときなど細心の注意が必要である。注意を怠ると断線させてしまう危険がある。・機器の利用者を変更した場合、パソコン設定も変更する必要があるが、以前の蓄積データも変更後の利用者名となってしまふ。

(7) 費用面での効果(ロボット機器等の導入による費用の削減の有無を必ず選択すること。)

ロボット機器等の導入による費用の削減 有

ロボット機器等の導入による費用の削減が「有」の場合、以下を回答すること。

削減額(円/月)	970,637円
職員の賃上げ等への充当	無
その他職場環境の改善への充当(※1)	無
サービスの質の向上に係る取組への充当(※2)	有

(※1) その他職場環境の改善の具体的な内容について記載すること。

・なし

(※2) サービスの質の向上に係る取組の具体的な内容について記載すること。

・今まで感覚的にしか知ることしかできなかった、ご利用者の睡眠状況について、深い眠り、浅い眠り、覚醒とデータで確認できるとともに、心拍、呼吸、リラックスなどを管理することができるようになった。このことで、眠りの時間は短いけど深い良質な睡眠が確保できている方や、短い間隔で睡眠と覚醒を繰り返し眠りの質が良くない方などを知ることができ、少しでも良質な眠りが確保するために検討する材料とこのことを考える時間が確保できた。・夜勤は3人と少ない人数であるが、他の利用者への対応に、時間の余裕をもって対応可能となった。・職員の精神的不安を解消することができ、その気持ちのゆとりがサービスの質の向上に繋がる。